

第 20 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成30年12月12日

開 会 中

場 所 第 1 委 員 会 室

第 20 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成30年12月12日（水曜日）

午前 9 時 58 分開議

午前 11 時 12 分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019 女子ハンドボール世界選手権
熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ 2019 熊本
開催に関する件
- (3) 2020 東京オリンピック・パラリン
ピック競技大会に関する件
- (4) 国際スポーツ大会の成功に向けた取
り組みに関する件
- (5) 付託調査事件の閉会中の継続審査に
ついて
- (6) その他

出席委員(15人)

委員 長 瀧 上 陽 一
副委員 長 高 野 洋 介
委員 藤 川 隆 夫
委員 城 下 広 作
委員 松 田 三 郎
委員 吉 永 和 世
委員 池 田 和 貴
委員 溝 口 幸 治
委員 西 聖 一
委員 内 野 幸 喜
委員 橋 口 海 平
委員 楠 本 千 秋
委員 中 村 亮 彦
委員 松 野 明 美
委員 吉 田 孝 平

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

国際スポーツ大会推進部

部 長 小 原 雅 晶
政策審議監兼
国際スポーツ大会推進課長 寺 野 慎 吾
知事公室
政策審議監 白 石 伸 一
くまモングループ課長 小金丸 健
総務部
人事課長 小 原 雅 之
企画振興部
地域・文化振興局長 水 谷 孝 司
首席審議員兼企画課長 内 田 清 之
地域振興課課長補佐 受 島 章 太 郎
文化企画・世界遺産
推進課長 西 尾 浩 明
健康福祉部
首席審議員
兼健康福祉政策課長 沼 川 敦 彦
障がい者支援課長 永 友 義 孝
環境生活部
政策調整審議員
兼環境政策課課長補佐 野 中 眞 治
自然保護課審議員 板 橋 麻 里
商工観光労働部
総括審議員兼政策審議監
兼商工政策課長 中 川 誠
観光経済交流局長 原 山 明 博
観光物産課長 上 田 哲 也
国際課長 波 村 多 門
農林水産部
農林水産政策課審議員 徳 永 浩 美
流通アグリビジネス課長 井 上 克 浩
土木部
政策審議監 平 井 宏 英
首席審議員兼監理課長 藤 本 正 浩
都市計画課審議員 伊 東 貢
教育委員会
教育理事 山 本 國 雄
教育政策課長 江 藤 公 俊

体育保健課長 西 村 浩 二
警察本部

参事官兼警務課長 開 田 哲 生
参事官兼生活安全課長 中 島 真 一
参事官兼地域課長 木 庭 俊 昭
交通規制課長 大内田 朗 二
理事官兼警備第二課長 奥 村 一 精

事務局職員出席者

政務調査課課長補佐 岩 永 千 夏
政務調査課主幹 植 田 晃 史

午前9時58分開議

○淵上陽一委員長 それでは、ただいまから第20回国際スポーツ大会推進特別委員会を開催します。

それでは、議事に入ります。

お手元に配付しております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思います。

なお、委員会の運営を効率的に行うため、説明につきましては着座にて簡潔にお願いします。

それでは、議題1、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、説明をお願いします。

○寺野政策審議監 初めに、先日の第17回女子ハンドボールアジア選手権につきましては、多くの皆様に御参加いただきまして、まことにありがとうございました。

結果などにつきましては、お手元に配付しておりますので、後ほど御報告させていただきます。

委員の皆様方には実際に現場の運営状況などをごらんいただきましたので、お気づきの点や御意見等を賜れば幸いです。

それでは、お手元の第20回国際スポーツ大会推進特別委員会資料に沿って、前回の委員

会からの変更点などを中心に説明させていただきます。

まず、議題1の2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件につきまして、まず1ページ、大会概要をごらんください。

(5)の参加チームでございますが、24チームが参加しますが、先日のアジア選手権によりまして、アジア枠として韓国、中国、カザフスタンの3カ国、またオセアニア枠としてオーストラリアが出場権を獲得しました。

このほか、年内にアフリカ枠やヨーロッパ枠など6カ国が決定する予定でございます。

2ページをごらんください。

国際ハンドボール連盟IHFとの大会開催契約でございます。

ことし4月のIHFムスタファ会長との基本合意に沿いまして、去る10月にスイスのIHF本部におきまして、国際ハンドボール連盟と日本ハンドボール協会の間で、大会開催に係る契約が正式に締結されました。

次に3番、チケット販売でございます。3ページでございます。

11月25日から、来年の本大会のチケットの先行販売を開始しております。

チケット販売は、4回に分けて順次行うこととしておりますが、第1弾としまして、2019年1月17日まで、人気の高い決勝戦と準決勝戦、また会場ごとの予選をパッケージにしたチケットを全世界同時に先行抽選販売しております。3ページの表の、赤枠部分となっております。

なお、チケット料金につきましては4ページに記載しております。

続きまして、5ページをお願いします。

第17回女子ハンドボールアジア選手権の開催についてでございます。

12月9日まで開催しましたアジア選手権につきまして、本日お配りしております資料をごらんください。A4横でございます。

試合結果でございますけれども、優勝が韓

国、2位日本、3位中国、4位カザフスタン、5位オーストラリアでございます。ここまでが、世界選手権出場国でございます。

1枚めくっていただきまして、観戦者数でございます。

観戦者数につきましては、11月30日から12月5日までの予選ラウンド5日間の合計で、八代会場が6,610人、山鹿会場が8,061人となりました。

また、12月7日から9日まで決勝ラウンドが行われた熊本会場は、1万36人の入場がございました。合計で、右下の2万4,707人という多くの方に足を運んでいただきました。ありがとうございました。

6ページにお戻りください。

大会ボランティアでございます。

ボランティアにつきましては、11月20日まで募集し約800名の方々から応募をいただきました。高校生や大学生、主婦の方など幅広い世代、職業の方から応募をいただいております。このうち約2割程度が、アジア選手権でも今回活躍いただきました。

来年4月から2次募集を開始いたしますが、個人に加えまして企業や教育機関などからの団体から、まとまった数の応募を見込んでおりまして、ボランティアの数については一定の見通しがついたものではないかと考えております。

7ページをごらんください。

「2019女子ハンドボール世界選手権大会を成功させる会」の設立でございます。

本会は、全国的な応援組織を発足して、オールジャパンでの盛り上げを図る目的で設置するものです。来週の12月18日に、東京において発足式を行います。メンバーは、元日本銀行総裁で現在一般社団法人キャノングローバル戦略研究所理事長の福井俊彦様を初め、国会議員やマスコミ関係者、スポーツ関係者、また政界、財界を中心としましたハンドボール経験者の会でございます。界友会の方々

で、約150人の出席を予定しております。

8ページをお願いいたします。

大会アンバサダー等の選任でございます。熊本にゆかりのある著名人を「アンバサダー」あるいは「特別サポーター」としまして選任し、機運醸成を図るため、イベントへの参加などに御協力いただくこととしております。

「大会アンバサダー」は、スポーツ界のトップの方に競技の枠を越えて支援していただくということで、公益財団法人全日本柔道連盟会長の山下さん、また、公益財団法人日本サッカー協会会長の田嶋さんに御就任いただきました。また「特別サポーター」につきましては、長年各分野で活躍されており知名度が高い方として、八代亜紀さん、松中信彦さん、轟悠さんに御就任いただくこととしております。

次に、9ページの会場整備でございます。

前回の委員会におきまして御質問いただきました会場整備につきまして、現在の状況をお付けしております。

5会場は、いずれの会場もほぼ今年度中に改修工事が終わりますが、一部、県立総合体育館の大型映像装置の新設や、山鹿会場の照明のLED化工事が来年度中までかかる見込みでございます。

また、各会場とも来年度仮設工事を予定しております。財源としましては、t o t oの助成金や防災安全交付金の活用を予定しております。

議題1については、以上でございます。

○ 淵上陽一委員長 次に、議題2ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件についての説明をお願いします。

○ 寺野政策審議監 それでは、引き続き12ページをごらんください。

大会概要でございます。4番の「予選組み

合わせ」でございますが、プールBの「敗者復活予選優勝チーム」と前回まで記載しておりましたが、ここにカナダの出場が決まりました。これで全ての出場国が決まり、ごらんのようなプール分けとなっております。

13ページ、チケット販売でございます。2番です。

9月から11月まで行われたチケットの一般抽選販売につきましては、この期間にイベント開催などを集中的に行った結果、IDの登録者数やチケット申し込み数ともに順調に伸びていると聞いております。

今後は、一般先着販売が1月19日から始まることとなっております。福岡県や大分県などとも連携して、チケットの販売をさらに促進してまいります。

14ページをお願いします。

チームによる2回目のキャンプの視察でございます。

熊本市で公認キャンプ地を行います全4チームによる2回目の実地視察を、9月から来年3月にかけて実施中でございます。

10月にはフランス代表チームが来熊し、試合会場や練習グラウンドなどの視察が行われました。

視察結果はおおむね良好で、来年の滞在期間中、県民との交流を深めたいとの話もいただいております。今後、トンガ、ウルグアイが順次視察を予定しております。

15ページをお願いします。

ラグビーの大会ボランティアでございます。ボランティアにつきましては、10月に応募者に対するインタビュー、面接が行われました。数人ごとのグループのディスカッションやラグビーボールを使ったゲーム等が行われました。来年1月以降、ボランティアに対する研修も始まる予定でございます。

下段の5番、開催都市特別サポーターの選任でございます。

16ページをごらんください。

特別サポーターとしまして八代亜紀さん、宮崎美子さん、MICAさん、熊本城おもてなし武将隊の皆さんにお願いしております。

皆様におかれましては、ラグビーワールドカップ開催1年前イベントやラグビーのトークショーへの出演などにより、大会の盛り上げに御貢献いただいているところでございます。

17ページ、会場整備でございます。

ラグビーワールドカップの会場についても、おおむね計画的に整備・改修が進んでおります。

本設工事では、「その他」の防犯カメラ改修や園路改修等、また仮設工事を来年度予定しているところでございます。

財源としましては、国の防災安全交付金等を活用することとしております。

議題2は、以上でございます。

○淵上陽一委員長 次に、議題3、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について、説明をお願いします。

○寺野政策審議監 それでは、21ページのキャンプ地の誘致をごらんください。

まずインドネシアのバドミントンでございますが、交流事業の一環としまして9月末から10月初めにかけて、熊本の高校生がインドネシアに渡りまして現地のジュニアチームと親善試合を行っております。

また11月初めには、駐日インドネシア共和国大使館のアリフィン・タスリフ特命全権大使を熊本にお招きし、事前キャンプの成功に向け、大使を初めとする有識者の意見交換会を開催するとともに、熊本の観光地や在熊企業を視察いただいております。

22ページをお願いします。

台湾のバドミントンでございます。現在、八代市がバドミントンチームのキャンプ誘致に向けまして活動中で、来年1月には台湾で

市長によるトップセールスが行われる予定でございます。

3番のアンゴラにつきましては、玉名市が在京のアンゴラ大使館を通じ、女子ハンドボールチームのキャンプ誘致活動を実施しております。11月には、玉名市長が大使館を訪問し、駐日アンゴラ大使に女子ハンドボールチームのキャンプ誘致について協力を要請したところでございます。

23ページをござらんください。

4番のドイツにつきましては、競泳チームが10月末から11月初めにかけて、FINAスイミングワールドカップ2018東京大会の直前合宿をアクアドームくまもとで実施されております。

少し飛びまして、27ページをお願いいたします。

聖火リレーでございます。聖火リレーにつきましては、ルート等を検討する熊本県実行委員会を8月に立ち上げまして選定方針を決定し、下段の黄色の枠囲みのところでございますが、この方針に沿いまして現在ルート案の検討を行っております。年内を目途に、実行委員会承認案を東京の組織委員会に提出する予定でございます。

最終的なルートにつきましては、東京の組織委員会が来年7月ごろ決定・発表することとなっております。

議題3については、以上でございます。

○淵上陽一委員長 次に、議題4国際スポーツ大会の成功に向けた取り組みに関する件について、説明をお願いします。

○寺野政策審議監 それでは、28ページをござらんください。

28ページから30ページまでにつきまして、少し字が小さいので、お手元のA3に拡大しました資料をござらんいただければと思っております。

国際スポーツ大会の成功に向けた庁内の連携について、改めて整理しましたので御説明いたします。

国際スポーツ大会開催で目指す成果としましては、大会の円滑な運営、観戦者数の目標達成、レガシーの構築の3つでございます。

下段の楕円の枠囲みをござらんください。

①の、円滑な大会運営につきましては、競技運営、選手などの宿泊・輸送、観客向けのシャトルバスなどの運行については、当部の専管事項としまして至上命題として取り組みます。

そのほか、例えば警察本部ではテロ対策等に取り組むなど、各部局が所管事項に力を入れて取り組んでいただいているところでございます。

まん中の②の観戦者数目標の達成につきましては、当部では主にコアのファン層であるラグビー、ハンド関係団体を通じて、観戦者の増加に向けて積極的に取り組むこととしております。

総務部や教育庁では、一校一國運動の実施、商工観光労働部では一般観光客へのプロモーションなど、各部局でさまざまな取り組みが行われております。

③のレガシーの構築につきましては、国際スポーツ大会を各部局の施策推進の好機と捉えまして、それぞれの取り組みを展開してまいります。

このように、3つの成果の実現に向け庁内部局がしっかり連携しながら、それぞれの分野で取り組みを進めております。

次の、観戦客の誘客に向けた取り組みでございます。

まずハンドボールにつきましては、96試合で30万人の観戦者を目標としております。スポーツ大会で1日に複数の試合がある場合につきましては、多くが1日単位でチケットを販売するため、1人の入場者が2試合見た場合を観戦者数2とカウントします。もぎりで

入った方が入場者数で、その方が何試合見た数ということで観戦者数をカウントしていくこととしております。

ちなみに、97年の男子大会では、1人当たりが約1.6試合を観戦されており、これを参考に観戦者数の推定を行いました。

また、前回大会では、県外や海外の来場者数の記録は残念ながら残っておりませんでしたので、内訳は旅行会社等の意見を聞きながら推定を行ったところでございます。

下段の、枠囲みの表をごらんください。

まず誘客対象としまして、県内、県外、海外という距離軸を設定しております。

また誘客の中身でございますが、ハンドボール関係者等のコア層と一般のライト層というターゲットに分けて、誘客を展開することとしています。

まず、下段の海外の観戦者数でございますけれども、ハンドボール、参加24カ国中23カ国が国外でございまして、国別でいろいろ差はあると思いますが、平均100人は来ていただけんじゃないか、来ていただきたいという思いから、入場者数2,300人。これを上方修正しまして、入場者の目標2,500人。海外からなので4試合ごらんになるだろうということで、観戦者数目標を1万人としております。

中段の県外につきましては、各県の協会や強豪校等の関係者数から大まかな積み上げを行いまして、観戦者数を3万5,000人と推定しております。この残りが県内ということでございまして、割合として85%、25万5,000人。この実現には、いかに多くのリピーターを確保できるかが鍵と考えております。

これらの誘客につきましては、国際スポーツ大会推進部が、ハンドボール競技者やコアファン層へアプローチを行い、ライト層である一般客を各部局の協力を得て集めるという方向で進めてまいります。

次に、ラグビーのワールドカップでござい

ます。

目標は、2試合とも満員にするということで、6万人としております。

この内訳につきましては、以前JTBで推定されました県内6割、県外2割、海外2割としております。現在のチケット売り上げ状況も、これに近い数字と聞いております。

誘客の考え方は、ハンドボールと同様にラグビーファミリーを国際スポーツ大会推進部が、一般客を各部局の協力を得てという形で誘客を図ってまいります。

次に、もう1枚横の資料をお付けしております。

前回の委員会で溝口委員から、広報の考え方についてどうなんだという御意見がございました。今説明しました誘客との関連が非常に深いので、誘客計画に続けてその点について御説明させていただきます。

左上に「別添資料」と書いている資料でございます。

縦軸が距離軸でございます、横軸に時間軸を示しております。

最上段の枠囲みに1年前イベントなど、本番までの折々の主なイベントを記載しているところがございます。

まず上段の海外への発信につきましては、国際課等が中心となって実施されておりますが、九州3県で連携して、ラグビーなどを中心に、欧州中心にPR活動を行っているところでございます。

次に、中段の県外への発信につきましては、下段の県内の発信と分離できないものも多く、観光物産課や東京、大阪、福岡事務所と連携して取り組んでいるところでございます。

最後の、県内につきましては、都市装飾など県内外への情報発信につきましても、私どもが知事公室などと連携して進めているところでございます。

今後は、これまでの取り組みの強化とともに

に、比較的関心が薄い層へ、ライト層への周知を図るため、表中オレンジで着色しておりますSNSの活用やテーマソングの作成、テレビなどのコマーシャル、目立つ場所での広告等に、当部を中心に力点を置いて進めてまいりたいと考えております。

特にSNS等につきましては、ホームページとともに重要な発信手段と考えておりました。今後アクセスを増加させるための施策を進めてまいりたいと考えております。

県内外での広報PRは、これからが本番と考えております。

ブランディングアドバイザーに小山薫堂氏を招いておりますので、アドバイスをいただきながら、さまざまな仕掛けも考えてまいりたいと考えております。

委員会資料の31ページに、お戻りください。

3番の、機運醸成に向けた取り組みでございます。

まず、アの「くまもとフレンチウィーク2018」につきましては、期間中に開催されたシンポジウムに出席し、国際スポーツ大会に向けた取り組みなどを説明しております。

次に、イの「第34回九州地域戦略会議」での協力要請につきましては、10月25日に大分で開催されました会議に当部から参加しまして、九州各県知事や経済団体関係者などに対しまして、女子ハンドボール世界選手権に向け、試合観戦を初め広報、協賛等の協力を要請したところでございます。

次に、ウの各種団体との情報共有、意見交換でございますが、各種団体の会議などに出席しまして、大会の実施に向けた取り組み状況を説明するとともに、海外からの誘客に向けて連携した取り組みなどの実施について、関係者と情報共有を図ったところでございます。

具体的には、次の32ページになりますが、熊本商工会議所や熊本県銀行協会の会合に出

席して、こういう意見交換を行っております。

次に、(4)のPR活動でございます。

まず、女子ハンドボール世界選手権でございます。

1点目は、大会公式PRキャラクターくまモンの活用です。「くまもとから未来をプロジェクト!」としまして、くまモンが県内外のスポーツイベントや強豪チームなどを訪問して、大会と熊本のPRを行ってまいりました。9月から11月にかけて福井県や大阪府などを回り、PR活動を行ったところでございます。

また、33ページのとおり、カルビー商品の裏面を活用して、女子ハンドボール大会のPRを行いました。この商品は、九州、沖縄地区で販売されております。

2点目は、イベント等の実施でございます。

大会400日前ということで、10月25日に鈴木スポーツ庁長官を訪問したり、在京の主要新聞社5社を回り、女子ハンドボール大会のPRを行ったところでございます。

34ページをお願いします。

11月25日には、大会1年前記念イベントとして、ラッピング電車の出発式を開催しました。

また、パルコ前のグラニットボールに装飾を行っております。

次に、関係団体との連携としまして、モルテンさんとくまモンデザインボールの販売を始めました。

また日本郵便とは、協賛企業用に女子ハンドボール大会のPRを掲載した年賀はがきを作製したところでございます。

次に、35ページのラグビーワールドカップのPRでございます。

大会開催1年前のイベントとしまして、9月30日に福岡ヤフオクドームにおきまして、福岡、熊本、大分3県の合同PRイベントを

実施しました。また、10月5日から7日まで、ポップアップミュージアムとしまして、ラグビーワールドカップ全開催12都市をつなぐ移動型の巡回ミュージアムがイオンモール熊本で開催されました。優勝トロフィーの「ウェブ・エリス・カップ」などの展示やラグビーアトラクションが行われました。

36ページをお願いいたします。

中ほどの「ウ」でございます。フランスのスポーツ紙「L'Équipe」の取材でございます。同社は世界的に有名なスポーツ紙で、本県がこれまでコンタクトをとってきた経緯もあり、ラグビーワールドカップの取材のために来熊されました。この機会を利用して、フランスの出場が決定している女子ハンドボール世界選手権大会についてもPRを行うとともに、フランス国内でのPRに関する助言もいただいたところでございます。

このほか、36ページから37ページにありますように、他団体主催のイベントでのプロモーションや公民館での観戦講座を実施するなど、さまざまな機会を利用して両大会のPRを行っております。

当課の説明は、以上でございます。

続きまして、庁内各部局の取り組みにつきまして、関係課から御説明いたします。

○波村国際課長 私からは、海外からの誘客の取り組みについて説明いたします。

資料の38ページをお願いいたします。

海外からの誘客につきましては、ターゲット国を定め効果的な誘客に取り組んでいるところでございます。

ターゲット国については、ラグビーはフランスそしてイギリスのウェールズ、オーストラリア、ニュージーランドでございます。

女子ハンドボールは、フランス、ドイツ、ノルウェー等の北欧諸国、韓国をターゲット国としております。

次に誘客対策でございますけれども、方向

性としたしましてはFIT対策に重点を置きつつ、旅行商品の造成や熊本県そのものの認知度アップに向けた働きかけを行うこととしております。

続きまして、これまでの取り組みについて説明いたします。

39ページ以降に記載しておりますが、ここでは10月1日に開催されました前回特別委員会以降の主な取り組みについて説明いたします。

40ページをお願いいたします。

まず、FIT対策でございます。番号の4番の③でございますが、イギリス、フランス、オーストラリアのラグビー専門メディアに大観峰、熊本城、八千代座を初め、太平燕などの食文化を取材していただきまして、これは間もなくウェブ上で掲載される予定となっております。

次に4番の④でございますが、こちらは世界最大級のラグビー専門ウェブメディア「Rugby pass」においてオーストラリア向けの情報発信を行っております。スタジアムや熊本市内の繁華街、阿蘇などを紹介し、フェイスブックなどで配信が始まっているところでございます。

41ページをお願いいたします。

8番の①でございますが、JNTOとの連携事業で、フランスのオンラインメディアのラグビーニスタ、雑誌社のフィガロを招請しまして水前寺公園での抹茶体験、阿蘇でのサイクリングなどを体験していただき、観光情報の発信を行っております。

次に、8番の②でございますが、フランスのオフィシャルトラベルエージェントでありますイブンティームを招請して、熊本城城彩苑での忍者コスチューム体験などの紹介を初め、旅行商品造成の打ち合わせを実施したところでございます。

次に9番でございますが、福岡にあります韓国の大手エージェント、ハナツアー・ジャ

パンと女子ハンドボール大会関連の旅行商品造成の商談を実施しております。

次に10番でございますが、ラグビーワールドカップチケットの一般抽選販売の結果発表が11月26日ございましたが、このタイミングに合わせまして、直前の11月20日にオンライントラベルエージェントを活用した集客に関するセミナーを開催いたしました。また、世界最大級のOTAでありますエクスペリアからも講師を招き、その有効性や活用方法について周知を行ったところでございます。

次に11番でございますが、北欧諸国で女子ハンドボール世界選手権大会のプロモーションを実施しております。デンマーク、ノルウェー、スウェーデンを訪問し、現地エージェントやハンドボール関係者に対して、大会をPRするとともに、大会期間中の誘客、特に宿泊に係る具体的な情報交換を行ったところでございます。

続きまして、少し飛びますが46ページをお願いいたします。

27番でございますが、文化企画・世界遺産推進課の取り組みでございます。

東京オリンピック・パラリンピックに向けまして、日本文化の魅力を発信するbeyond2020プログラムにおきまして、基本バージョンに加えまして、くまモンと国際スポーツ大会を組み合わせた熊本県版ロゴマークを制定したところでございます。

続きまして、47ページから今後の予定について掲載しております。この中で、主な取り組みについて説明いたします。

まず2番でございますけれども、熊本市との連携事業で欧米、豪向けの観光PR動画の制作に取りかかっております。現在、取材と編集作業を並行して行っておりまして、年明けできるだけ早く阿蘇、熊本城などの観光情報をSNSなどを通じて配信する予定でございます。

続きまして4番でございますけれども、年

明け1月にウェールズラグビー関係者を招請して、SNSを通じた動画による情報発信を行う予定でございます。

以上、今後も部局横断的に、大会に向けた誘客や受け入れ環境を整備、そして熊本の魅力発信に努めていくこととしております。

続きまして、(2)県産品の販路拡大に向けた取り組みについて説明いたします。

51ページをお願いいたします。

写真を掲載しておりますけれども、10月21日から25日にかけてフランスで開催された欧州最大級の食品・飲料見本市のSIALに出展しまして、県産品のPR及び販路拡大の支援を行っております。県内企業6社が参加し、具体的な商談が行われておるところでございます。

以上、今後も新たな欧米豪市場の開拓、商品開発、魅力の発信に努めてまいります。

私からの説明は、以上でございます。

○徳永農林水産政策課審議員 農林水産政策課でございます。

資料は、52ページをお願いします。

県産食材等の供給に向けた取り組みでございます。前回の特別委員会以降の取り組みを中心に御説明いたします。

(ア)県内開催の国際スポーツ大会に向けた取り組みでございます。

①「くまもとテーブル」と題しました取り組みです。

写真は、8月のおりひめJAPAN激励会のものですが、ページ下段の4行に記載しておりますとおり、今年9月のアジア選手権最終日のパーティーにおきましては、会場装飾、テーブル装花、イチゴ「ゆうべに」の試食、デコポンの贈呈を行っております。

次のページ、②県産農林水産物の利用促進活動につきまして、3つ目の項目に記載しておりますが、10月に県産農林水産物の旬の食材カレンダーを作成し、地産地消協力店やホ

テルに配布をいたしまして、利用促進を働きかけております。今後は、出場国関係者にも配布を予定しております。

最下段の④の試合会場でのPRですが、女子ハンドアジア選手権の八代市と山鹿市の会場におきまして各市の実行委員会と連携し、地元産農産物のPRとおもてなしを、来年に向けまして試行的に実施いたしました。

次のページをお願いいたします。

(イ)東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みでございます。

引き続き、①のオリ・パラ選手村への飲食提供候補事業者に対する働きかけを行っております。

あわせて、②から品目ごとのGAP等の推進状況を記載しております。

新たに御報告する事項としまして、おめくりいただきまして56ページ⑤の水産物でございます。

本県の主要な養殖水産物であります、ブリ、マダイ等につきまして、調達基準を満たすAEL認証を10月に4業者が取得いたしました。

農林水産政策課からの説明は、以上でございます。

○伊東都市計画課審議員 都市計画課でございます。

資料の57ページをお願いいたします。

アのこれまでの取り組みでございます。

国際スポーツ大会に係る土木部の取り組みですが、おもてなしグリーンプロジェクトなどにより、来年の国際スポーツ大会を見据え、平成28年から31年までの4カ年計画で、沿道景観などの向上を図っております。

これまでの取り組みとして、沿道景観に配慮した植栽などの改善を行っております。

写真は、第2空港線の状況をお示ししておりますが、空港やインターチェンジなどと大会開催地や主要観光地を結ぶ幹線道路におい

て、高木の更新や低木を地衣類に植えかえることにより、沿道景観の向上を図っております。

また、その下の写真のように、路側などにおいても防草シール材による雑草防止対策も行っているところでございます。

次の、58ページをお願いいたします。

大会開催に向けた公園施設の改善ですが、写真のとおり熊本県民総合運動公園内のラグビー場において、グラウンド面の樹木除去により、国際規格に合わせた広さを確保し、安全・安心な競技環境を整えるとともに、観客の視界確保を図っております。

イの今後の取り組み予定でございますが、今後も大会開催時期に合わせ、引き続き下記について取り組んでまいりたいと考えております。

都市計画課は、以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○江藤教育政策課長 教育政策課でございます。

59ページをお願いします。

(4)国際スポーツ大会に係る教育委員会等の取り組みにつきまして、御説明いたします。

ア、普及活動でございますが、これは10ページ、18ページと重複しておりますので、説明は割愛させていただきます。

イ、機運の醸成に向けた取り組みをごらん願います。

①の諸会議における情報提供につきましては、さまざまな機会を捉えて、または各地を訪問して大会の基本情報やイベント、来年度のスケジュールなどの紹介や、一校一国運動の取り組みのお願いなどを行っております。

②の広報誌による大会周知につきましては、教職員向け「教育くまもと」を11月に発行し、教職員など1万6,000人に配信いたしました。

60ページをお願いします。

④の学校用のコマーシャルDVDの制作と配布につきましては、公立、私立全ての学校に第2弾を今月配布予定です。

一校一国運動取り組みのイメージづくりや授業での活用に役立つよう、各競技の名場面、応援映像や学習活動事例などを1枚のDVDにまとめて配布いたします。

61ページをお願いします。

ウ、一校一国運動の取り組みを来年度に実施するための準備につきまして、公立、私立全ての学校で進めてまいります。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○奥村警備第二課長 警察本部の取り組みにつきまして、要点のみ御説明申し上げます。

62ページをごらんください。

まず、これまでの取り組みでございますけれども、①アジア選手権大会における取り組みですが、世界選手権を見据えた検証も目的としまして、大きい体制で臨みました。

各会場に5人以上の制服警察官を常駐させるなどしましたが、会場内また関係者等から犯罪被害等の届け出は一切ございませんでした。

下の未然防止のための意識啓発ですけれども、各会場におきましてキャンペーンを実施しました。おそらく来年もおいでになるお客様方ですので、テロ防止のための意識啓発ということで、委員の先生方の卓上に置かせていただいておりますウエットティッシュ等を配ったところです。

②官民連携した活動でございますけれども、下の写真、左側とまん中にありますように、会員参加型のテロ訓練を実施しました。

県劇、えがお健康スタジアム等で、内容、想定等を明らかにしない本番さながらの訓練を実施したところでございます。

④交通安全施設の整備ですが、補正予算で

「おもてなしの交通環境整備事業」をつけていただきました。会場周辺等の施設整備に充てることといたしております。

⑤繁華街対策でございますけれども、ここに書いておりますように取締りの強化、また条例制定とあわせてまして啓発活動、被害者が出ないような街頭活動も実施しております。またテレビ等あらゆる媒体を使いましてPRしているところです。

右下の写真、わかりにくいですが、鬼のマークで、中に「客引きは嘘つき、ぼったくり」と書いております。これを繁華街で配ってきておるところです。これも卓上に置かせていただいております。

続きまして、63ページをごらんください。

今後の取り組み予定です。

まず、①計画の策定ということで、今回のアジア選手権におきまして、今集約中ですが、課題なりを抽出しまして、警備計画を策定していきたいと思っております。

特に会場まで遠うございますので、アクシデントがあった場合に、いかに定時性を確保するか、このあたり事務局とも相談しながら対策を進めていきたいと思っております。

②官民連携した活動ですけれども、一番下、必要な事務所や機関等に呼びかけをしまして、さらに会勢を拡充していきたいと思っております。

③交通の安全と円滑の確保。下の段おもてなし事業でございますけれども、年度内に押しボタン式信号のボックスの取り替え、これは英語並記で、こういうふうに、ここを押してください、そういったものの取り替えや交通ビデオや監視カメラ等の整備を進める予定でございます。

⑥繁華街対策ですけれども、浄化のため、こういったこととあわせて、まずは条例制定と31年4月の施行に向けまして、熊本市への支援を強化していくこととしております。

警察本部から、以上でございます。

○淵上陽一委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入ります。

まず、(1)2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何かありませんか。

○藤川隆夫委員 この間のアジア大会、御苦労さんでした。

その観客数に関しまして、今見ると29試合で約2万5,000名。

今後、世界大会においては96試合で30万人という話になっておまして、一生懸命努力しないと恐らくクリアするのは厳しい数字かなというふうに今見ております。

その中で、大会会場に関しましては施設整備等が順次、今進められているところだというふうに思っております。

ただ、これに合わせまして、この多くの参加国の練習会場というのが、また別に必要だろうというふうに思っております、その部分に関して今、各高校の体育館等を使うような話を聞いておりますけれども、その状況をまず教えていただければと思います。

○寺野政策審議監 今回の大会でも、予選リーグが終わった後、悔しかったということで、もっと練習したいという意見があつて、あらかじめ用意した時間では収まらなかったということがございました。

来年の世界大会につきましては、高校あるいは公的機関等10カ所を今練習会場として予定、確保しておるところでございますが、今回の練習会場が足らなかった、あるいは練習のアスレチックですね、試合前にみんなビルドアップしていくんで機器が足らなかったということも踏まえながら、選手が一番いい環境の中で試合できるような体制を再検討していきたいと思っております。

○藤川隆夫委員 当然、この練習会場も既にチェック済みだろうとは思いますが、それなりの、要は練習環境を整えてあげなければいけない。その中で、高校、公的機関の体育館等に関して、これからチェックされるんだろうと思いますけど、その中身ですね。やっぱ、きちっとした整備をしていかないと、練習はやりたいんだけど、その環境が整っていないというんじゃない、どうしようもない話であつて。

その中で、例えば1つ挙げると、トイレの件だとか、逆に言うと公立高校ではほとんど和式のトイレだろうと思いますが、そのトイレの改修をしなければいけないとか、あるいは床がどうなっているかというその部分ですよね。コートですね。その整備も当然やらなければいけない。なおかつ、こういうアスリートが練習した後に、当然シャワー等の話も恐らく出てくると思います。逆に言うと、簡易のシャワーを付けたら何か考えなきゃいけないという部分が多々あるかというふうに思っておりますので、そういうところは万全にさせていただいて、いい練習環境をつくっていただくように、ぜひ、この部分は要望しておきますので、よろしく願います。

○淵上陽一委員長 ほかにありませんか。

○橋口海平委員 アジア選手権お疲れさまでした。

そのときのファンゾーンなんですけど、余り盛り上がっているようには見えませんでした。というのが、淵上委員長も……山鹿体育館などでは、ほとんど誰も飲んで観戦する人がおらず、それが日本の文化なのかなとも思うんですが、外に小さいテレビとかでもいいので、そういうのとかもやっぱり本番はやっていただいたり、寒さ対策とか、そういうのも万全にやっていただきたいと思っております。

ですが、今回の大会は、やっぱりファンゾーンはもっと盛り上がるような取り組みをするんでしょうか。

○寺野政策審議監 各会場ビールといろんなつまみを用意したんですけれども、ひとつは寒さもありまして、なかなか進まなかったと。日本人の奥ゆかしさでしょうか、招待客の方はビールに手をつけていただかなかったと。

確かにモニターとかございませんでした。

それと、意見をいただいたのは、子どもたちが楽しむようなファンゾーンになってなかったんじゃないかとかがありますので、大人も子どもも、寒さ対策も含めて、どうやったら皆さんが楽しんでいただけるのか。

あるいは、ハーフタイムにはショーがあったんですけれども、試合と試合が1時間とか45分空いて、閑散としていた。そこをどうつなぐのかも含めて、全体が盛り上がり、最初から最後まで試合が流れていくような対策をしっかりと考えてまいりたいと思っております。（「関連して、いいですか」と呼ぶ者あり）

○松田三郎委員 今の橋口委員の御指摘のようかどうか、決勝戦のときしか私は見ていませんけど、ほかの会場なり、ほかの日には見ていませんけど、そこに出されていらっしゃるお店というのは、どこかに委託してですか、それとも公募とか……。キャパの問題もあろうかと思いますが、そこを1点お願いします。

○寺野政策審議監 正確には把握しておりませんが、多分に地域の方に呼びかけて、手を挙げる形で参加していただいたと思っております。

○松田三郎委員 橋口委員もおっしゃったよ

うに、外に出てしまうと中の様子が見えないので、本番と一緒にしてくださいと言うつもりは、あのときはありませんけれども、何かそういうモニターなり、あるいは寺野さんおっしゃったように、子どもさんが遊べる場所。これは本番では、試合会場とかなり離れたところの、例えば熊本の中心市街地とかに設置予定があるならば、やっぱりそれなりの告知なり工夫というのをもさらに必要だと思いますので。

その点、小原部長は前回のワールドカップにもラグビーにも、デンマークのハンドボールにも行って、ファンゾーンを精いっぱい満喫なさっておられますので、体験が参考になると思いますので、私も一緒でございましたが、行った分の情報が無駄にならないように、しっかり共有していただいて、今回に反省するところがあるならば、本番に生かしていただきたいと思っております。要望です。

以上です。

○淵上陽一委員長 ほかにありませんか。

○内野幸喜委員 済みません。私も決勝戦と、あと山鹿での予選を見させていただきました。

決勝の後の表彰式ですね、見ると非常にいい大会だったなと改めてあのとき思いました。多少、メディアでは厳しいことを言われていましたけれども、これは来年に向けての激励という意味で捉えたらいいのかなというふうに思いました。

私は、あのときからずっと気になっているのが、来年1月の男子の世界選手権、これが韓国、北朝鮮の合同チームが出場すると。場合によっては日本の世界選手権でも、合同チームになる可能性があるという話がずっと気になっていて、来年1月のドイツについてはいつ決定だったのかと。例えば、直前にそれが決定とかになれば、その準備であたふた

することも想定されるので、まずそのドイツ大会はどんな経緯だったのか教えてもらっていいですか。

○小原国際スポーツ大会推進部長 合同チームになったのは、秋以降だというふうに考えております。直前だと思っております。

国際ハンドボール連盟としては、やはりその合同チームというのが、ドイツ大会の1つの大きな目玉という形で捉えておられるようでございまして、今のところは合同——韓国の国旗ではなくて統一旗ですね、あれを利用してやることになっております。

次回のそのドイツの大会がどのような大会になるかを含めまして、ちょっと私どものほうも視察団を派遣して、どのような対応で、例えば国歌演奏とか国旗の応援とか、またチームの編成、そういったのを含めて、事前の調査あるいはIHFとの協議をきちっと進めていきたいと思っております。

今回のアジア選手権で来られた韓国のチームの役員の方にもお話を職員のほうから伺っておりますが、具体的に来年どうするかという話は、韓国のほうの協会ではまだ行われてはいないようでございます。ただ、そういうことも念頭に置きながら、十分な準備を図っていきたいと思っております。

○内野幸喜委員 今の話だと、秋以降に決まったと。ドイツ大会がですね。

だから場合によっては直前に決まったりとかそういうことだってあり得ると思うので、それも想定して、これは警察本部も関係していると思いますので、やっぱりそういう対応もとっていかないといけないというふうに思います。そうなるとうちに、いろんなほかの部分もふえてくるので、そこは注視しながら見ていってほしいなと思います。

○池田和貴委員 今、内野先生のほうからも

御指摘があったと思うんですけども、来年、1年後に向けていろんなことが起こってくる可能性があると思うんですね。本当、今回ハンドボールのアジア選手権、大変皆さんお疲れさまでございました。

ハンドボール選手権をやった上で、例えば体制については先ほど説明もいただきましたし、今年度、部になって人員もかなり増強されたというふうに聞いておりますが、いよいよ1年後に向けて、今回のアジア選手権を経験してみて、例えば、この辺が手薄だったとか、何かいろいろ組織とか人数、体制とかそういう面から見て、何か反省点とか改善点とかというのが、もしあるようであればちょっと教えていただきたいと思うんですけども。

○寺野政策審議監 幾つか申し上げますと、例えば会場の管理係がおりましたけれども、もぎりをやったりADカードをチェックしたり——会場の管理、少し手が足りない状況を感じております。

あるいは、チームに語学ができる人をつけたんですけども、空港に誰もお迎えに行けなかったりと少しマンパワーの量的なところで不足を感じたところはございます。

そういう今回の検証を含めまして、人員体制につきましては、どこをどうふやすんだ、どこをどうならしていくんだというのを含めて、人事当局に今相談しているところでございます。

○池田和貴委員 多分経験してみてわかることは多々あると思いますので、もうやはりずうっと準備してきたことを最後にいろいろ言われるかもしれませんが、こけないように、ぜひ充実を図っていただきたいというふうに思います。

ちょっと、やっぱり大会をやりながらやっていくと、来年の1年後に向けて、例えば今

までやってきた業務から、大会運営のために入らなければいけなくなって、それは今までやってきたところの人たちから不満が出るとか、民間の方からですよ。そういった場合もたぶん考えられるので、そういった、いろんな業務をやる中で、その人が離れたら誰かがサポートできるとか、そういう体制も踏まえていくと、少しそういうまあ遊撃隊みたいな人も必要なのかなというような感じもするのですよね。その辺ぜひ皆さん方の中で、もう1回検証をした上でやっていただきたいと思います。

何かコメントがあれば。

○寺野政策審議監 今、職員のことを申し上げましたけれども、ボランティアさんにつきましても、本大会とアジア大会の……済みません、指名がございませんでした。失礼しました。

ボランティアさんにつきましても業務に少し多寡がありまして、これは来年の大会で走りながら募集して、走りながら業務を固めていった一つのゆがみだと思うんですけども、職員、ボランティアさんにつきましても、平準化とおっしゃったように遊びの部分、遊撃隊ができるような感じで、今回を踏まえてきちっと再検証をやりたいと思っております。

以上です。

○池田和貴委員 済みません、続けて。

そこはぜひ考えて、やっていただきたいと思います。

あともう1点は、先ほどからお話が出ていますように、96試合で30万人という目標を達成しようとしております。いよいよチケット販売が開始されましたので、もうチケットを購入された方って誰かいらっしゃるんですね。

○寺野政策審議監 特に1年前ということで、特に世界については1年前からやって知らしめるというPR効果をねらってやっております。

実際ノルウェーの方からは、コアのファンの方がバイキングキャップをかぶってうちの事務局へいらっしゃいまして、チケットを押さえてくれと。しかもノルウェーの旅行会社を連れてきまして、チケットがあったら旅行商品を発行できるということで、250枚の申し込みがあります。このほかにも、とある旅行会社、JTBさんですけれども、宿を押さえてくれというような要望も来ておりますので、やっぱり北欧の強豪国からそういう動きが始まって、少しずつPR効果がきてきているのかなという思いは持っております。

○池田和貴委員 そういう反響があることは非常にいいことだと思うんですが、ただ全庁体制でやっているという以上、チケットを購入するかどうかは別にして、やっぱりチケットIDを皆さんがやっぱり1回見てみる、どういうふうになっているのかとか、見てみるということは大事だと思うんで、もし差し支えなければ、今チケットIDのホームページを見て、開いたことがある人は今何人ぐらいいるのかなと思ってですね……ハンドボール。

手を挙げてもらいましょうか。（「そこまでせぬでも」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員 実際それを買うかどうかは別にして、やっぱりそれを申し込むことによって、たぶん情報が送られた相手には送られてくることになるので、やっぱりそういうのもやっぴらっしゃるところの人たちは見るためにも、もうこういうのが発売があったら率先してやってもらうようにしてもらえればなと思いますので、よろしく願います。

○淵上陽一委員長 ほかに質疑はありませんか。

○吉永和世委員 今回の女子ハンドボールのアジア選手権、大変お疲れさまでございました。

私も応援させていただきまして、ファンゾーンへ行きまして、車を運転していたのでビールは飲めなかったんですが、代表して松田先生に飲んでいただきました。

今回の海外12ですかね。（「9、全体で10です」と呼ぶ者あり）宿泊、おもてなしといった中での部分でいくと、宿泊というのは大変大事な部分なのかなと思うんですけども、その宿泊施設に関して何か今回新たな課題が見つかったのか、何かそういった点があれば、その宿泊したチームから何か要望があったとか、そういうことがあれば教えていただければと思うんですけども。

○寺野政策審議監 宿泊、食事、輸送について特段の困ったクレームというのは、私の耳には入ってきておりません。

ただ、12月の試合で忘年会シーズンとも重なったものですから、12月の金曜日につきましては、山鹿、八代会場から、少し交通渋滞があったという話は事実問題としてあっております。

○吉永和世委員 そういうクレームとかはなかったということですが、来年に向けて、宿泊施設の受け入れ体制というか、そういったものをしっかりとまた充実させていただくように。

○西聖一委員 小さいことですが、音響が非常に悪かったという話がきているので。各会場は全部行っていないのでわかりませんが、そういう音響対策とかを今からするの

かという話と、トイレへ行ってたまたま蛇口を使ったら壊れておいて、何かおもてなしする側として少し残念だったなと思って感じたんですけど、そこら辺の施設の改修は今からするところもあるんでしょうけれども、しっかり予算を取って、細かいところの配慮はあるのかどうかお聞きしたいと思います。

○寺野政策審議監 音響につきましては、たぶん八代会場のお話だったかと思うんですけども、ステージ上に置いていたスピーカーを観客席に向けて、ステージ上はほとんど聞こえなかったという問題もございます。

本番につきましては、これをステージ上も仮設の音響で全てのところが会場がきちっとやれるような対策は設計の段階に入れております。

トイレ等につきましていろいろ御意見をいただきながら、できる限りやっていきたいと思っております。

○淵上陽一委員長 ほかに質疑はありませんか。

なければ次に、(2)ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、質疑はありませんか。

○溝口幸治委員 ラグビーも、ハンドボールもちょっと関係すると思うんですけども、何か今一つ経済界の盛り上がりというか、よく言われるラグビーは、特に経済効果をしっかり果実として取っていくというのが大きな目標なので、もっとお金の落ちる仕組みというか、多くの方々に喜んでいただいて、きょうも農林水産部とほかの説明もあった農産物だとか、あるいは県産酒をたくさん飲んでもらう、そういう仕掛けというのは、やっぱり経済界がしっかり盛り上がっていただかないとできないのかなというふうに思っています。その経済界の方々に、やっぱりこのラグ

ビーの大切さとかハンドボールの重要性というのを訴えていただくのはやっぱり執行部なので、今経済界とどういふ話をされているのかということと、何か経済を盛り上げる仕掛けをお考えだと思いますので、その辺をちょっとお話しただけならばというふうに思います。

○寺野政策審議監 資料では32ページのところが1つ示していますけれども、経済界の方も、ラグビーのレギュレーションがわからないとか、どこの国から何人来るのという素朴な疑問がまずございました。そこを解くために、この国から何人いらっしゃいます、きょうお示ししましたけれども、どこの国を何人ターゲットにしているということをお示しして、ああ、こんな感じ、じゃ商売になるなということをお示しして、例えばラグビーだとしたら10月にあるんで、まだビアガーデン開けるじゃないかと、これは地元のビールも売れるようになる、あるいはフランスは回遊性を好まれます、じゃ上通りを回そうか、テーブルを出してお迎えしようか、そんな議論を今この場で始めているところでございます。

仕掛けとしましては、ラグビー、ハンドボール一緒になって地元の経済界も入れた決起集会的なことを3月ぐらいにやって、みんなを盛り上げていこうかというような取り組みを今やっているところでございます。

○溝口幸治委員 わかりました。

○淵上陽一委員長 ほかにありませんか。

○内野幸喜委員 これから、来年はラグビーが終わって今度は女子ハンドと、本当に立て続けになるわけですね。今、部の人員を増員させるというのは当然考えているんでしょうか。

○寺野政策審議監 先ほどの池田先生の御要望とかぶるところはございますけれども、今まで、おりひめJAPAN等、夏にやってきたことも踏まえまして、組織体制、特に人員の量につきまして人事課には相談しているところでございます。今回、どこが不足していた、という点もありましたので、そこを中心に——人事課長いますけれども……きちっとやってですね。

体制が県と熊本市の半分ずつの体制でございますので、県これだけ、市これだけと、県、市の両方の人事課で話し合いながら、人員を今お願いしているところでございます。

県のほうも震災対策で、各県から応援に来ていただいて、非常に難しいところでございますけれども、これは取りこぼしができないということで、るる申し上げて、必要な人員をつけていただけるものと思っております。

以上でございます。

○小原人事課長 人事課でございます。

具体的な話を国際スポーツ大会推進課のほうからいただきまして、県職員も、派遣して他の課から出したりとかしていますけれども、必要な人員について、きちんと部の話を聞きまして、適切に対応をしていきたいというふうに思っています。

○淵上陽一委員長 ほかに質疑はありませんか。

○池田和貴委員 済みません、重ね重ねになりますが、13ページに書いてありますように、チケット販売ですね、これはラグビーの場合は、たぶん私たちが日ごろやっているような手売りというのは、最後までやっぱり難しいんじゃないかという気がせぬでもなかなですか。チケット購入にID登録は必要ですし、これは最初、これができたときから結

構、私もやりましたけれども面倒くさいです。DMCのところに、それを支援するような場所をつくっていただいておりますけど、60日で100人ですよ。やっぱり、かなり厳しいんだと思うんですよ。もちろん、そこはそういった外部にお願いするところもあるんですけど、ここで関係している人たちは、取りあえずIDだけは取ろうと。例えば、県職員さんたちは皆さんID登録だけはしようとか、やっぱりそういうのももしかしたらあって、自分で体験してみて、聞かれたときにはそこで少し答えられるようなことも、もうやっば来年度に向けてやることも必要かなというふうに思いますので、ただこれ強制はできませんけど、なるべくそういったこともぜひやっていただければなというふうに思います。

これID登録すると必ず買わなければならぬというわけじゃなくて、ID登録すると、何か大会に対する情報があったらそれがメールで送られてくるとかという、いわゆる情報の広がりがあるので出てくるということもありますので、そこは買う買わぬは別にして、そういったところをやってもらえればなというふうに思います。どがんでしょうかね。

（「関連して」と呼ぶ者あり）

○西聖一委員 私もちよっと企業の方にお聞きしたんですけど、一生懸命協力して200万ぐらい協力しているという話の中で、入場券を取るために全職員にIDを取らせて申し込ませて、結局抽選で当たるのが4分の1か5分の1で、なおかつ3日以内に通知が来たら、個人口座からお金を振り込まないかぬということで、大変な苦勞がかかるということと、会社だから一括して払いたいんだけどもそれができないというので。あともう一つ、その試合を買いいたいんだけど、6試合1セットとか、見られない試合まで買わないかぬとか、そこはちよっとやりにくい、難しい

んじゃないですかというお話を聞いたもんだから。そこは改善……やっぱりラグビーは世界で……本当にそこまで観客動員できないんじゃないか。

○寺野政策審議監 我々としても企業さんを含め、団体が欲しいということで、組織委員会の会議が数カ月には一回あり、各会場から団体売りをしてくれというのはあっております。組織委員会も、日本はわかっているんですけど、その上にリミテッドという——イングランドがいますので、なかなかそこで縛りを解いてくれないのが実態でございます。

今後、海外で今90万枚、日本で90万枚売りながら、少しずつリリースして行って、まだ全部はリリースしていません。売れないときは海外からハンドバックという形で戻ってきますので、そのときを見据えながら、そのときは手売りさせてくれと、プレイガイド、というのをずっと、我々も矢を放って、各会場が団結して今要望しているところでございます。

○瀧上陽一委員長 ほかに。

○松田三郎委員 関連して。今最後におっしゃったように、リミテッドは非常に、全世界を対象にするのでなかなか難しいと、要望しても突き崩すのは難しいだろうと。

ただ、最後におっしゃったように、ある人に聞いたら来年の6月ぐらいには戻ってきて、6月と言ってもそうそう期間はないでしょうけど。そこから先は多少、裁量の部分という売り方も含めて自由になるんじゃないだろうかという話をなさっていました。そのときに、ちよっと不確かな話で間違いもあるかもしれませんが、例えば、本県の場合は3万人で、メディアの席とか入れると、それより少ないのかもしれませんが、大きく分けて国内で1万5,000、海外で1万5,000という

枠がそもそもあるわけじゃないんですかね。

○寺野政策審議監 その枠はないと思います。

○松田三郎委員 それでは、この資料にあるように、販売状況の詳細は未公表、ただ、さっき冒頭ちらっと寺野さんも、JTBかどこか通じて、大体自分の希望どおりか何かになっているような話がありましたけれども、ちょっと薄々このくらいですよというのわかるものですか。

○寺野政策審議監 薄々は感じております。

○松田三郎委員 30ページの別紙で説明なさいましたように、これはハンドボールも一緒ですが、海外からもたくさん来ていただきたい、県外からもたくさん来ていただきたい。逆に残った分という変な言い方ですけど、熊本県民も多く見ていただきたいけれども、今回はできれば海外というか県外、日本の県外からという人が多ければ多いほどいいわけでしょうから、そういう努力をしてそれでも、それでも回らないというちょっと消極的ですが、そういうときはやっぱりファンゾーンも含めて県民にも多く触れていただきたいと思いますので、そのチケットに関しては恐らく、今、西先生もおっしゃったようにいろいろな不満なり何なりはあっても、ちょっと難しいのかなあという感じはしておりますので、それ以外、ある時期以降、熊本県が主導して動けるようなときには、池田先生がおっしゃったように、我々も選挙の経験がありますので、直接面談しながら売るとというのが非常に効果的だなというのを、アナログ的ではありますが、実感も持っておりますので、そういう方向で引き続き要望していただければと。

○瀧上陽一委員長 ほかに質疑はありませんか。

○溝口幸治委員 済みません、ID登録チケット購入に関してですけど、サポートセンターがあつてそこで登録できるということがありますが、これは提案ですけど検討していただければと思いますけれども。さっき西先生が言ったように、企業では社員さんにID登録させてというところがあるとするれば、逆にそのID登録って私もやりましたけど、結構ようわからんところがあつたりするので、そのサポートを企業に行つて、お昼休み時間サポートしてやるとか、まあ企業との了解も要るでしょうけども、そういう営業部隊というか、そういうのがあつたほうが最後の追い込みとして、やれる手を全部打つとすれば、ここに登録来てくれといたら、なかなか働きよる人たちは難しいわけで、企業さんとどうですかという話をしながら、こっちから行ってID登録のお手伝いをするみたいなこともあつてもいいのかなと思いますので、ちょっとそれは検討してみてください。

○瀧上陽一委員長 ほかに質疑はありませんか。

なければ、次に(3)2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について質疑はありませんか。

○城下広作委員 聖火リレーのことについて、ちょっとお聞きしますが、限られた短い日数しかないから、なかなかどこでも回れないということで、ただ熊本県下できるだけ多くの地域を回るとというのが一番最初にあつて、ぜひうちの市町村には来てもらいたいという強い要望があつている市町村があれば教えてもらいたいのと、そういうところがどのくらいあるのか全く反応があるのかないのか、ちょっとそれを、関心度をちょっと聞き

たいと思います。

○寺野政策審議監 聖火リレーにつきましては、7月に担当者説明会というのをやりまして、聖火リレーってこんなもんだよというふうに説明して、その後、二、三の市町村から、うちをぜひ通るようにしてくれという要望はいただいております。

○城下広作委員 たった二、三ということは、聖火リレーでたくさん、我が市町村に来てもらいたいというのは、私は大体どこでもあるのかなと逆に思ったけど、二、三しかないということは。ちなみに、玉名市はそれに入っているんですか。事実を言ってください。

○寺野政策審議監 うちの事務局に直接にはいらしていませんけど、個別にはそういう話は伺っております。

○城下広作委員 だから聖火リレーって、オリンピックを盛り上げる部分で熊本県でも非常に大事な私はイベントだと思うんですね。そこに誰が走る、どこを走るというそのルートというのは熊本のオリンピックの演出にも非常に意味があると思うし、金栗四三さんのことはどうだこうだと一生懸命言いながら、本家の玉名市にそういう話がないというのは、どがん感覚なのかなって、それは悪口を言うわけではないけど、その辺の聖火リレーの意味合いがうまく伝わっておらぬから、みんな二、三ぐらいいしか市町村が挙がってらんのかなというふうに思うんですが、どうですかね。

○寺野政策審議監 我々の伝え方がいかななものかというのはあるかと思うんですけど、聖火リレーにつきましては、実は負担がございまして、リレー走るときの警備の負担、あ

るいは小さなセレブレーションがあって、その負担がございまして。その負担についての少し抵抗感があって、なかなか手が挙げづらいのかなという思いもございまして。

○城下広作委員 最終的にはその市町村が負担だから、それはそれで負担が重いならやりたくないという人があるかもしれないけど、県としてこの貴重なオリンピックの聖火リレーの期間が熊本にあって、それをどう演出するかというのが効果的かと考えるのも、県の役割だから、そこは県がリードしながら市町村とどういう形で、これ以上手が挙がらぬなら何かしら県のほうが逆に、こうこうルートで行きたい、どうか負担もかかるけどこういふふうにしてくれぬかということも考えぬと、これ何か全然意味のない聖火リレーの熊本の枠になるんじゃないかと思うけど、これはどうですか。

○寺野政策審議監 先ほど説明しました聖火リレーにつきましては、8月にルートを決める実行委員会を立ち上げまして、この中でなるだけ多くの市町村を通るですとか震災からの復興を見せる、あるいは世界とつながるようなコンセプトをしながらルートを選んでいるところでございまして。

仮に市町村から要望がございまして、このコンセプトに合わないところは受け入れないということもございまして、そこはある程度決まったところで、正式には来年7月に全国一斉に組織委員会が発表しますが、それまでこれも守秘義務が課せられていまして、なかなか説明しにくいということがあると。私たちが委員会で、この案で組織委員会でいろんな視点を見て、ある程度決まったときには市町村のほうに、お宅は通る予定にしていますけども、準備してくださいというのは順次説明していこうかと、通る市町村につきましてははですね。

○城下広作委員 ですから今、受けない、来てもらいたいというのが二、三しかないわけだから、これからどうと今からふえるならともかく、恐らく今の段階では二、三カ所だったら、黙っておけばそのくらいだろうと思うんですよ。だから、それを現実と捉えて、どうやって県が、逆にどう演出するか、どうしたほうが最高にいいだろうと、いろんな観光の面でも熊本を売り込む分でもということ、ある程度こちらが今度はリードしながら関係するといいますか、県が描く一番効果的な形の聖火リレーのことで市町村と、手が挙がらなければ「どうですか」という話をして手を挙げてもらって話をある意味でまとめていくことが必要だと思うんですけど、どうでしょうかね。

○寺野政策審議監 さっきの繰り返しになりますが、聖火リレーにつきましては、聖火リレーの考え方と、情報開示できる分は開示して市町村に一回説明していますんで、それ以上、手を挙げませんかというのは今は考えておりません。

委員会の中で決まったルートと、その走る市町村に、どうやって見せるか、セレブレーション、にぎわいをやっていくかの演出を今からやっていくことになると思っております。

○城下広作委員 二、三しか挙がらずに、最終的には手は挙がらぬかったから、同じところをぐるぐるぐるぐる回るようなことだけはやめていただきたい。それだけ言っておきます。

○淵上陽一委員長 ほかに質疑はありませんか。

次に、(4)国際スポーツ大会の成功に向けた取り組みに関する件について質疑はありま

せんか。

なければ、質疑はこれで終了いたします。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りします。

本委員会に付託の調査事件につきまして、審査未了のため、次期定例会まで本委員会を存続し審査をする旨、議長に申し出る事としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○淵上陽一委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

次に、その他として何かございますか。

それでは、これをもちまして本日の委員会を閉会いたします。

午前11時12分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長